

仙人通信 123 十二ヶ岳(1200 m)・小野子山(1208 m)

十二ヶ岳・小野子山は、群馬の吾妻川沿い、子持山と隣り合わせの小火山体である。草津へと繋がる国道 353 号線沿いにある小野上駅の先の十二ヶ岳の道標に従い、林道を浄水場の先まで進み、ゲート手前の駐車場に車を置いてのピストンである。

林道を『入道坊主』の先のあづま屋の地点まで進むと登山口である。この登山道は十二ヶ岳・小野子山のほぼ中央に位置するカルデラ状の中を進む、沢沿いのコースである。

萩・山百合が咲き誇る中へのスタートだ。杉林のコースでは、カニコモリ・ヤブレガサ・ガクアジサイ・コアジサイ・フタリシズカ等、白い花が目立つ。足元では茶色い安山岩等の比較的密度の低い溶岩が主体であり、火山であった事を物語る。暗い杉林の中は、梅雨明けとの事もあり、蒸して汗が止まらない。『十二ヶ岳滝上』から滝音を聞き、しばし涼う。

約 1 時間で杉林から抜け出し、ミズナラ・リョウブ等の落葉樹林帯となり、右手の緩やかなコースを 10 分程進むと十二ヶ岳と中の岳の中央の鞍部である。十二ヶ岳に向かい 10 分程で男坂と女坂コースに分岐する。オカトラノウ・ミヤマカラマツの白い花・丈が 10cm に満たない紫のホタルブクロがロープの掛かった男坂を飾る。そうそうレンゲショウマの丸い蕾が開花待ちで、印象的でした。三角状の濃い緑のフモトスミレの新芽も綺麗である。

1 時間 45 分で 3 等三角点の山頂である。雨上がりでもあり、たくさんのトンボやオオムラサキが乱舞して迎えてくれた。ガスがあるも、小野子山までは文句ない展望だ。

紫のアザミ・濃いピンクのベニバナシモツケ・トリアシショウマも綺麗だ。先ほどの鞍部まで戻り、中の岳・小野子山へと進む。中の岳は目視では隣の両山より低いようだ。

北側をカラマツが南面をミズナラやツツジ等の落葉樹が覆った下りで、樹下のコースは濡って滑り安く気が抜けない。ギボウシ・イヌゴマ・イヌコウジュ・イヌトウバナ等の白い小さな花も見られる。25 分程で鞍部に着き、登りとなる。ここからは、トリアシショウマがコースを埋め尽くす。コアジサイ・ガクアジサイ・先の尖ったノリウツギである。

黄色い花は、ニガナ・コキンレイカ・そして、ベニバナシモツケが絵のポイントを作る。

中の岳から 1 時間で小野子山の山頂に立てた。山頂にある三角点には四等と刻まれており、初めて見て、びっくり！！。休憩後に先ほどの中の岳先鞍部まで戻り、杉林の最後で、キセル状の白い花を付けたギンリュウソウと巡り合え、ウグイスを初め小鳥の声と花々に囲まれた思い出に残る、ちょうど 6 時間(19000 歩)の山旅ができた。(h 2 6. 7. 2 3)

山頂



ガクアジサイとトリアシショウマ



ギンリュウソウ

